

令和8年度 京都府立木津高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階)

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営計画)
<p>○ 多様な生徒一人一人を大切にし、誰一人取り残すことなく資質・能力を伸ばさせ、主体的に進路選択ができる力を育成する。</p> <p>○ 伝統校としての歴史を継承しつつ、地域や社会の変化を踏まえた教育活動を推進し、地域から信頼され、生徒一人一人が輝き、自己実現できる学校づくりを進める。</p> <p>1 校種間及び地域との連携を一層推進し、地元の小・中学生にとって魅力ある学校づくりと、地域から信頼される学校の実現を図る。</p> <p>2 あらゆる教育活動をとおして、生徒の規範意識とコミュニケーション能力の向上を図り、主体的に考え、正しい判断・行動ができる生徒を育てる。</p> <p>3 生徒の自尊感情及び自己有用感の高揚を図るとともに、他者を思いやる心を育む。また、安心・安全で充実した教育環境の整備に努める。</p> <p>4 生徒に自己理解を深めさせるとともに、目的意識を高め、自らの進路を主体的に切り拓く力や、責任ある行動力を育成する。</p> <p>5 カリキュラム・マネジメントの観点から、教育課程の改善と充実を図るとともに、教職員の資質・能力の向上に努め、組織的・計画的に教育活動の質を高める。</p> <p>6 学習指導要領の趣旨を踏まえ、指導と評価の一体化、及び主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。</p> <p>7 教育環境のDX化を推進し、ICTの効果的な活用を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する学習環境の構築を図る。</p>	<p>1 昨年度に引き続き、各コースの特色を活かした新たな実践を行うなど、普通科の探究活動が一層充実した。小・中学校、支援学校との連携に加え、京都探究エキスポや他府県で開催された研究発表会にも参加し、探究活動の成果を発揮できる機会が拡充したことで、探究活動を軸とした学校の更なる魅力化につながった。</p> <p>2 システム園芸科、情報企画科では、地域での販売実習や中学校でのビジネスマナー講座等、専門学科の特色を活かした取組をとおして地域や校種間の連携を推進した。また、昨年度に引き続き、農業系の大学・大学校への進学、商業系専門高校推薦による大学進学など、専門学科での学びが進路決定につながった生徒が比較的多く見られ、専門学科の学習の意義が改めて確認された。</p> <p>3 学校全体としての進路状況は、系統的できめ細やかな進路指導の成果が感じられるものであった。大学進学者の割合は継続的に上昇しており、特に普通科特進エリアでは、今年度、国公立短期大学への合格を果たした生徒がおり、国公立大学・短期大学への進学は2年連続となった。また、学校紹介による就職は、早い段階で内定率100%を達成したほか、卒業時に進路が未決定の生徒は、非常に少なくなっている。</p> <p>4 生徒指導上の課題を有する生徒や、特別な教育的支援を要する生徒など、一人一人の状況に応じて丁寧に時間をかけて対応し、生徒が安心して過ごせる教育環境の維持に努め、その成果は一定認められた。一方で、年度途中で進路変更に至った生徒は例年より多く、特に退学者が大幅に増加したことは大きな課題である。</p> <p>5 部活動加入率は58.0%で、昨年度より若干低下したものの、運動部、文化部とも活動は活性化している。また、部活動の部員が学校行事における運営補助や準備・撤収に積極的に携わっており、学校全体に好影響を及ぼしている。</p> <p>6 木津高校創立125周年を見据えたプロジェクト会議において、昨年度に引き続き、学校の課題及び改善の方向性について議論を深めた。また、学校業務検証事業の実践推進校として、プロジェクト会が議から教職員の働き方改革に向けた提案を行い、朝の打合せの実施回数削減等を実現した。</p>	<p>○ スクールミッション及びスクールポリシーに基づき、以下の取組を重点として推進する。</p> <p>1 創立125年の歴史と伝統、建学の精神を継承しつつ、本校のスローガン『木津高で(ここで)未来を切り拓く』のもと、3つの学科において「主体的に学び考える力」・「多様な人となることができる力」・「新たな価値を生み出す力」の育成と充実を図る。</p> <p>2 各学科の特長及び専門性を活かした探究活動や学習活動の実践、学科間の協働及び地域・校種間の連携をとおして、「魅力ある学校づくり」を推進する。</p> <p>3 個に応じたきめ細やかな指導をとおして、確かな学力や専門的な知識・技能を身に付けさせ、自らの進路を切り拓く力を育成する。また、増加傾向にある中途退学の未然防止に向け、特別な教育的支援を要する生徒に対する組織的かつ適切な支援体制の充実を図る。</p> <p>4 規律ある学校生活及び基本的な生活習慣の確立に向けた指導の充実を図るとともに、多様性や人権を尊重する意識を育み、信頼に基づき互いに成長し合う人間関係を構築する学級経営及び学校づくりを推進する。</p> <p>5 教育活動にユニバーサルデザインの考え方を取り入れるとともに、危機管理の徹底及び安心・安全な環境づくりを推進し、生徒が安心して過ごせる教育環境の整備を図る。また、健康安全教育及び環境美化教育の充実を図る。</p> <p>6 校種間及び地域と連携した教育活動やボランティア活動をとおして、生徒の自己有用感を高めるとともに、木津高生としての誇りを育む。また、学校・家庭・地域がそれぞれの強みを活かして協働するコミュニティの形成を図り、持続可能な連携体制の構築を推進する。</p> <p>7 選ばれる学校づくりの実現に向け、広報活動の一層の充実を図るとともに、地域・中学生及びその保護者に対し、本校の魅力を組織的かつ効果的に発信する。</p> <p>8 不断の授業改善に努めるとともに、教職員の資質・能力の向上を図るため研修の充実を図る。また、昨年度に引き続き学校業務検証事業の実践推進校として、業務の精選・効率化、及び組織的な業務運営の見直しをとおして、教職員が心身ともに健康で意欲的に職務に専念できる環境の整備を推進する。</p>